

海外派遣留学プログラム「帰国報告書」

記入日	5/30/2024
所属学部・研究科・学院	融合理工学府
留学時の学年	修士2年～2年（留年）

1. 留学先について

留学先大学名		アメリカ合衆国ウィスコンシン大学ミルウォーキー校										
留学先所属学部等		自然科学部英語学科										
留学期間	出発日	8/29/2023	入学日	9/5/2023	修了日	5/18/2024	帰国日	5/19/2023				
住居	☒ 大学(紹介) の寮・アパート	☐ 民間アパート	☐ その他 ()									
	住居の決め方		派遣先大学のホームページや送られたパンフレットを参考に決めた。									
	通学時間									☒ On campus		
	通学方法		徒歩									
	居室スペース ✓を入れてください	☐ 個室	☒ (2) 人部屋	☐ その他 ()								
	共有スペース ✓を入れてください	☐ 完全個室	☒ キッチン	☒ トイレ	☒ バス	☒ リビング	☐ その他()					
食事	自炊 80 % 学食 % 外食 20 % その他 % ()											
保険	海外旅行保険 (名称・加入プラン名)		JTBトータルサポートプログラム (Iプラン)									
	留学先国・大学指定保険 (名称・加入内容)		Foreign Student Health Insurance							☒	加入必須	
	その他加入保険											
渡航ルート		ex.) 成田⇄シカゴ (飛行機) ⇄ウィスコンシン (電車)										
		羽田 ⇄ シカゴ (飛行機) ⇄ ウィスコンシン (バス)										

2. 留学資金の内訳

自費	☒	貯金	500,000 円	☐ アルバイト	円	☐ その他	円
援助	☒	親	875,301 円	☐ 家族・親戚	円	☐ その他	円
奨学金	☒	JASSO	850,000 円	☒ その他名称 (給付ENGINEサポート)		50,000 円	
その他	☐	()					円

3. 留学にかかった費用

総費用	約	2,275,301 円
-----	---	-------------

3-1. 留学にかかった費用：内訳

費目	外貨金額		円貨金額	
	通貨単位			
渡航費(往復)			297,800	円
JTBトータルサポートプログラム (海外旅行保険・危機管理サービス)			163,910	円
その他の保険料	\$	1,862	279,300	円
査証・在留許可証	\$	405	58,320	円
住居	\$	6,458	949,326	円
光熱費			0	円
通信費 (Wi-Fi、SIMカードなど)			0	円
食費	\$	400	60,000	円
通学に要する交通費			0	円
教科書、教材費	\$	15	2,205	円
その他大学に支払った経費	\$	1,765	259,440	円
その他 (旅行)	\$	1,365	205,000	円

3-2. 各費用の支払い方法

大学に払った費用	全額クレジットカードで支払った
住居にかかった費用	全額クレジットカードで支払った
その他	学内の銀行で作成したデビットカードとクレジットカードで支払った

3-3. お金の管理方法

渡航時	☒	現金 20,000 円			☐	その他 () 円		
留学中	☐	海外送金	☐	キャッシング	☐	その他 ()		
現地での 口座開設	☒	開設した	用意した書類や (パスポート) 気を付けること等				☐	開設しなかった

4. 学業面

4-1. 履修科目一覧

履修科目名	種類 ex.正規/聴講	単位数	単位互換			
1 EAP 101: College Writing for Multilingual Students	正規	3		有	○	無
2 Entertainment Arts: Film, Television, and the Internet	正規	3		有	○	無
3 Introduction to Creative Writing	正規	3		有	○	無
4 Practice in Academic Listening and Speaking	正規	3		有	○	無
5 History of Film I: Development of Art	正規	3		有	○	無
6 Film Art for Non-Majors	正規	3		有	○	無
7 Acting for Non-majors	正規	3		有	○	無
8 Foundation Production: Fiction	正規	6		有	○	無

4-2. 授業科目の選択, 登録方法

秋学期（9月～12月）は約4ヶ月前の5月から、春学期（1月～5月）は約1ヶ月半前の12月から履修登録を開始することができる。方法は特に千葉大学と異なる訳でもなく、学生ポータルのような専用のサイトに入り、シラバスを見つつ興味のある授業を検索して、登録する。

4-3. 授業内容, 方法に関して

当然座学の授業も多く存在したが、同時に実技科目も充実していた。そもそも映画や演劇といった芸術を積極的に学ぶことができる学科が豊富に存在し、そうした学科は実技科目が大半だった記憶がある。私自身もそうした芸術を学ぶことに関心があったため、実際に演技や映像制作をしてみる授業を受講した。他には、非ネイティブ英語話者が英語を学ぶ授業や、留学した目的でもある文学について学ぶために、クリエイティブ・ライティングという、生徒が文学作品を読んだり自ら作品を創作しながら全員で議論していく授業も経験した。
--

4-4. 語学力について

リスニング・スピーキング能力が特に向上した。やはりそうした能力は、周りをネイティブ話者で囲まれた、ある意味逃場のない場所でこそ（強制的に）成長するものだと感じた。もちろん渡航して1、2ヶ月は現地の友人や教授の話していることを1回目で聞き取ることができず、何度か聞き返してしまう、さらに自分の感じたことをすぐに英語としてアウトプットできない状態だったが、3ヶ月を経過したあたりで、ふと周りの会話がクリアに聞き取れる瞬間であったり、自分の思ったことを脳内変換せずに英語として発せられるようになってきた。そこからどんどん現地の人とのコミュニケーションがスムーズになっていった。

4-5. 図書館など学内施設について

図書館は地下1階+4階建てで、基本的には空いているが試験前になると多くの学生が訪れる印象がある。蔵書数も多い上に、ミーティングを行うことのできる大小様々な部屋を予約して利用することができるので重宝した。そうした一般的な設備に加え、この図書館では多くの映画をDVDとしてレンタルでき、半個室スペースで鑑賞することができる。映画好きの私としては一度は利用してみたかったが、結局その機会は訪れなかった。
--

5. 生活面

5-1. 住居について

留学を通してダブルルームに住み、2人で1部屋を共用するかたちだった。個人的には特にストレスもなく快適に過ごすことができたが、ルームメイトが早く就寝する際には部屋の電気は付けることができなかったり、あまり物音を立てないようにするといった暗黙の了解があった。さらにルームメイトがいる際には音楽や動画から出る音量に気がつけた。さらにキッチンやバスルームも他のスーツメイトが利用しているときは彼らが使い終わるまで待機するなどした。もしこういった配慮にストレスを感じるようであれば、シングルルームであるとか、スーツメイトの少ないアパートメントに住むのが良いかもしれない。

5-2. 食生活について

営業時間であれば寮に内設されたカフェでいつでも自由に食事できる”ミールプラン”には加入していなかったため、基本的には自炊を行った。近くのスーパーマーケットに週1回程度行き、1週間分の食事を買い込んで調理して食べた。ミールプランは非常に便利だがその分費用も高いので、”自由な食事”をとるか”費用削減”をとるかで、ミールプランに加入するか自炊するかは変わってくると思う。

5-3. インターネット環境、携帯電話について

寮内と学内にはそれぞれ学内関係者用の無料インターネットが敷かれていた。しかし建物の外ではインターネットが接続できなかったり、寮内のインターネットはたまに接続が切れてしまうこともあったため、インターネットばかりに頼らない携帯プランを契約しておくことが大切。契約プランによるけれど、あまり国際通話をする必要がないのであれば、日本の電話番号をキープして使うのもありかも（私自身は日本の電話番号をそのままキープして使っていた）。

5-4. 服装について

現地の気温は、留学期間の9～5月にかけては真夏日というのがほとんどなく、冬は極寒で－10℃を下回ることも普通にあるので、防寒対策を徹底した服装が必要だった。しかしそうすると荷物が嵩むので、渡航とは別に衣類を日本から輸送してもらうか、現地で調達するのが良いかもしれない。

5-5. 健康管理について

現地では保険が効かずあらゆる医療費が高騰すると思ったので、渡航前にそれなりの準備はした。たとえば歯医者に行って虫歯の前兆をチェックしてもらい治療を受けたり、風邪薬や腹痛薬、頭痛薬は余るくらい日本から持っていった。実際に、現地ではどの薬を買えば良いか分からなかったり、気候の違いから体調を崩してしまうこともしばしばあったため、そういった対策をしておいて良かったと感じている。

また、現地ではお金を気にせずなるべくバランスの良い食事を取ることを心がけた結果、特に大きく体調を崩すことなく留学生活を乗り切ることができたと思う。

5-6. 保険、危機管理サービスの利用について

千葉大学指定：JTBトータルサポートプログラム（Iプラン）

派遣先大学指定：Foreign Student Health Insurance

5-7. 課外活動について

JCAという日本語学習コミュニティに参加して、日本語を専攻・勉強している現地学生と交流した。彼らとは日本語と英語を教え合うだけでなく、プライベートでも交流して仲良くなることができた。また、彼らが作ろうとしている映画やゲームの英日翻訳に携わる機会もあり、課外活動といえども、学業としても非常に充実した体験をすることができた。

5-8. 学外のコミュニティとの交流について

特になし。

5-9. 日本から持参してよかったもの

風邪薬などの常備薬、箸、電子レンジで調理できる炊飯器。

5-10. 日本から持参したが不要だったもの

特になし。

5-11. 現地での対人関係について気づいたこと(習慣の違い, マナーなど)

まず、現地の人々はスキンシップが非常に多いことに気がついた。初めて会った人でも握手をするのは当たり前で、知り合いになるとハグをする人も多くいた。日本ではこういうことをしてこなかったために最初は少し驚きが伴ったが、慣れるとむしろこうしたスキンシップを心地よく感じられるようになってきた。というのも、スキンシップをすることで相手との距離感が早く縮まり、親しい関係性でいられる実感が湧くからだ。

また、アメリカは日本と比べて性的嗜好の多様性を積極的に受け入れている空気があるように感じた。たとえば、日本では相手に恋人がいるのか尋ねる際、最初から”彼氏””彼女”といった言葉を使って性別を限定してしまう傾向があるが、現地では”パートナーはいるの?”といった、どのような性的嗜好も受け入れるような尋ね方をみんなしていたので、その点は素晴らしいマナーであり、日本より進んでいる点だと感じた。

5-12. 余暇の過ごし方

旅行

ボストンへの旅行 期間：2023年11月16日～11月20日 費用：約365ドル（日本円で約5万5千円） 内容：留学生向けの就活イベントに日本人の友人と参加した

シカゴ、フロリダ、ニューヨークへの旅行 期間：2023年12月26日～2024年1月4日 費用：約1000ドル（日本円で約15万円） 内容：観光旅行

その他

ミルウォーキーはビールが有名なので、醸造場やバーに行ってビールを飲んで楽しんだ。

週に1度、友人とジムでバスケットボールをした。

映画が好きなので、疲れた時や気分転換したいときは映画鑑賞をした。

6. その他

6-1. 留学希望者へのアドバイス

迷っていたり不安でも絶対に飛び込んでみることをお勧めします。自分も卒業を1年延ばすことであったり、円安でお金が厳しかったりして少し躊躇いはありましたが、学び以上に現地に行かないとできない体験や、作れない友人を得ることができて、留学して本当に良かったと思っています。人生100年時代だと思って、あまり余計なことは考えずにぜひ楽しんでみてください。

6-2. 留学を終えて

派遣留学プログラムを通して、語学力や学びたい分野に対する知識だけでなく、将来に対する視野を広げ、人生に対する価値観を変えることができた。留学先の大学には30代の学生や夢に対して真摯に向き合って行動している人も多くいて、将来には様々な選択肢が拓かれていることを実感することができた。今後の就職活動において千葉大学での専門分野に限らず、留学先で学んだ文学や映像に関わる仕事も探してみようという後押しとなったのは、やはりこうした経験があったからだと思う。つまり自分自身の想いを尊重し、選択に自信を持てるようになったと感じているので、これからもこうしたマインドを胸に、充実した生活を送っていきたい。